



謹賀新年

『 たたら製鉄 』

たたら製鉄は日本古来の製鉄法です。この絵は『たたら製鉄』が最も繁栄した江戸時代後半、山口県の阿武郡阿武町白須山（しらすやま）で行われていたものを長州藩の絵師が27mもの巻物に仕上げたものです。砂鉄は70km離れた阿川村で採集され、船と馬の背や人で白須山まで運ばれました。その方法は鉄穴流しと呼ばれる方法です。山肌を崩し、その中に3%程度含まれている砂鉄を水の流れを利用して分離し集めます。一種の比重選鉱法で、80%程度の砂鉄を得ます。この方法は江戸時代に入って発明された方法です（1610年頃）。

燃料は木炭です。一回の操業（一代：ひとよと言います）は3～4日を要し、鉄を3.5トン生産します。それに使われる砂鉄は15トン、木炭も15トン、生木では60トンもの大量になります。『小鉄7里に炭3里』と言われましたが、木炭はたたら場（高殿：たかどのと呼ばれる工場）の近くの山で焼かれました。

鞆（ふいご）は最先端の天秤ふいごです。1691年に発明されたこのふいごは大きな省力化を実現しました。従来6～8人が踏んでいた踏み鞆を2人で踏めるようにしたからです。しかし交代制とは言え、鞆を踏む番子は重労働でした。厳しい労働に耐えるため『たたら唄』が歌われたと思われます。

鉄が出来上がりますが、皆さんの想像される鉄とは大きくイメージが異なります。『これは何だと思いませんか？』いつもお客さんに聞きます。『玉鋼（たまはがね）』を手にして、『重いな??これ鉄??』ほとんどの人が正解できません。このごつごつとした重いものが日本刀の材料である『玉鋼』であることを。

この鉄を加熱し、薄く延ばし叩き割って、積み重ね鍛接（たんせつ）しながら刀の素材に仕上げていくのです。日本刀が出来るまで数多くの工程を踏みます。



参考資料

たたら 日本古来の製鉄 J F E 21世紀財団 2004年
 絵巻物は『先大津阿川村山砂鉄洗取の図』

むらの鍛冶屋[®]

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
<http://www.kanamonoya.co.jp/ryou@memenet.or.jp>



何でもお気軽にお尋ねください！！